
終わりよければ

えんぴつ

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

終わりよければ

【コード】

N2750C

【作者名】

えんぴつ

【あらすじ】

家庭で、通勤途中で、会社で、ストレスたまりまくりのある中年サラリーマンの1日。お父さん、がんばれ〜！

終わりよければ

終わりよければ

いつものように朝7時に起き、1階に下りていくと、カミさんと高校生の娘がケンカをしていた。

おいおい、朝っぱらから勘弁してくれよ。

洗面所で顔を洗いながら聞き耳を立てると、娘に持たせているケータイ代が今月、3万円も請求がきたらしい。

ちょっと待てよ。父親の俺の月の小遣いが3万なんだよ。それで俺は、朝の立ち食いソバ代に昼飯代、好きなパチンコ代までまかっているっていうのに、高校生の分際でケータイ代が3万だと。それは許せん。

妻よ、怒れ。ケータイなんか取り上げる。

「お父さんから、たまには強く言ってよ。まったくこのコは、お父さんがいくら稼いでくるのか知ってるのかしら」

あつちやー、そつちに話を持っていくなよ、お前も。

お、茶髪の娘が俺のこと睨んでる。コイツにキレられると面倒だからなあ。

「3万は使い過ぎだろ……（あ、いま完全にフテくされた）……ン、でも、なんだ、ま、いまはみんなそのくらい使っらしいぞ。（うわ、今度はカミさんのオデコに血管が浮いた。マズイ）ま、使っちゃった

もんはしょうがない。来月から気をつけてもらうことで、朝からあんまりガミガミ言つのもよくないし……」

あれ、俺の話を最後まで聞かないで、また2人の口ケンカがはじまった。

なんだよ、父親の意見なんかどうでもいいんじゃない。じゃ、最初から俺に振るなよ、まったく。

それにしても朝からうるさいなあ。これから俺は満員電車で1時間も揉まれて会社に行かなきゃいけないっていうのに。

あ、もうこんな時間だ。俺のワイシャツは、と。

「母さん、ワイシャツは？」

「いまそれどころじゃないでしょ。大体3万円もケータイ代に使われちゃ、クーリーニングに出す余裕なんてないわよ。昨日の着てけば」

おいおい、俺に八つ当たりするなよ。マジで昨日のかよ。昨日、暑かったからすげえ汗かいたのに。うわ、気持ちわり〜。匂わないかな？

ま、ガマン、ガマン。それより急がないと電車に遅れちゃう。

「じゃ、行ってくるよ」

なんだよ、一家の大黒柱が出勤だつていうのに、無視かよ。

こら、娘、ケータイ代3万も使うなら、せめて父さんに「おはよ

う」とか「行ってらっしゃい」くらいの言葉はかけるよ。まったく、どうしてこんな娘に育っちゃったんだか。ていうか、親の責任か。

あー今日も暑いな、こりゃ。ワイシャツの首のところが気持ちわりー。

おうおう、また駅前で制服姿の高校生がたむろして、ウンコ座りしながら堂々とタバコを吸っているよ。まったくどうなってるんだ、ニッポンは。

俺たちも高校の頃、いきがってタバコ吸ったよ。でも、駅のトイレとか建物の裏とか、とにかくコソコソ吸ったもんだ。どんなに不良だって、朝、駅前で堂々と吸うなんて考えられなかったよ。

それがいまじゃ当たり前のように吸って、文句があるなら言ってみなかってな感じた。完全に大人を舐め腐っている。

しかし、だれひとりとして文句を言わないんだから情けない。目の前には派出所もあるっていうのに。警察は一体、なにしてるんだ。補導しろ、補導を。

ま、俺も目を合わせないように足早にこいつらの前を通るだけだけどね。文句なんか言えるか、こんな連中に。

ふー。どうにかいつもの電車に間に合った。

ズンズンチャチャ、ズンズンチャチャ。

あー俺の横に音楽野郎が立ちやがった。

うるせーな。こいつ、こんなに音が漏れているのによく平気な顔して聴いてられるな。

車内でケータイがなんで禁止なのか、分かってねーのか。うるさいからだよ。だったらダメだろ、大音量の音楽も。ボリューム下げなきゃ。

でも、俺、前にひ弱そうな大学生に注意して、「うるせーな。ぶつ殺すぞ」って逆ギレされて以来、怖くて注意なんてできないもんね。しょうがない、しょうがない。いつか、大人になれば分かる時があるぞ。

「あー私、私、いま電車。時間通り着くよ。でさ、ぎゃははは……」

だからケータイはいけないって散々、アナウンスしてるだろ。なんで、顔色ひとつ変えずにそんなにデカイ声で、この満員電車の中で話せるんだ。図太いにもほどがあるよ。

枝毛にそれだけ気を使うなら、もう少し周りにも気を使えよ。まったくホントにバカばかりでイヤになるよ。

お、今日はツイてるぞ。俺の前に座っている人が降りる仕草をした。よし、ここで座れば40分は眠れる。やリーー！

って、おいおばさん、その席はだれがどう見たって、俺の前で、次座るのは俺だろ。なんで俺の後ろに立っていたお前が座るんだよ。俺を押しつけて。そりゃ、ないよ。

もちろん、大の大人が席ひとつのことで文句なんか言わないよ。

そこまでして座りたければ座れば。いいよ。でもね、あんた自分さえよければいいんですか？ 心は痛みませんか？ あー一瞬でも座れると思って期待しちゃったから、こりゃ疲れるぞお、新宿まで。

やれやれ、やっと新宿に着いた。

それにしても暑いなあ。もうワイシャツ、汗でグツシヨリだ。肌に張り付いているよ。

さてと、暑いから今日の立ち食いはざるにでもするかな。

あ、ざるって50円高いのか。しょうがない、いつものかけそばでいいか。

ハフハフーツ。

それにしても俺が若い頃は、朝からこうやって立ち食いをかつ込んでいるサラリーマンを見ると、家で朝飯も用意してもらえないのかねー、哀れなもんだなあ、俺はそんなカミさんはもらわないぞ、なんて思っただけだ、もらっちゃったなあ。

しかも、立ち食い、うまいもんなあ。あーうまい。って、ありゃ、おいおいちよつと待てよお。こんな長い髪の毛入ってるじゃんよお。おばさん、気をつけるよなあ。

ったく、文句のひとつもいいたいけど、ま、いつか。ほとんど食っちゃったし。忘れろ、忘れろ。大したことじゃない。

うわ、熱いそば食べて、汗が噴き出してきた。

ハンカチ、ハンカチ、ってそんなもん、もう何年も持ったことなかったっけ。ティッシュでいいや。う、首にティッシュが張り付いた。

ブツ、ブツ!!

あ、あぶねーな。横断歩道、青だぞ。信号無視してクラクション鳴らすなよ、まったく。

「おはよう」

会社でも無視かい。俺はお前の上司だぞ、一応。挨拶ぐらいしろよ。まったくなを考えて会社に来ているんだか。

「あ、私にもお茶くれるかな」

出社早々、メールなんか打っているんじゃない。お茶だよ、お茶。お茶汲みしかできないんだから笑顔でやれよ。

おうおう、メール打ち終わってからフテ腐れてお茶入れに行ったよ。まったくよお。

え、電話？

「はい、私ですが」

「クレジットですが、今月分がまだ……」

「あ、その件でしたら、2、3日中に必ず……」

なんだよ、サラ金の催促が会社にきちやったよ。家には行ってないだろうな。

なになに、寿退社のOLに贈り物するから5000円徴収だと。勘弁してくれよ、いまサラ金から催促されたんだぞ、俺は。

え、なに、部長がカンカンだって。私に？

なんかした俺？

あー仕事が終わった。

今日もストレスたまりまくりの1日だったなあ。

さてと、ちょっとパチンコに寄ってくか。

ウソ。いきなり揃ったよ。なんていい日なんだ。

終わりよければ

終わりよければ

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

PDF小説ネット発足にあたって

広告募集中

小説関連広告に最適です。

出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2750c/>

終わりよければ

2008年8月13日21時03分発行